

会報・案内

平成13年度第7回理事会議事録

日 時：平成14年1月25日(金)14:00～18:00

場 所：学会会館赤門分館3号室

出 席：山田龍作会長，隈崎達夫総務理事，阿部公彦，
石垣武男，板井悠二，打田日出夫，遠藤啓吾，
酒井邦夫，高橋睦正，増田康治，平木祥夫，
平松慶博，山下 孝各理事，
小西淳二，利波紀久各監事，
渡会二郎第38回秋季臨床大会長

議 題：

1. 前回・前々回議事録の承認
2. 第61回日医放総会について
 - I. 会長報告
 - II. 名誉会員推薦候補者について
 - III. 次々々期会長推薦候補について
 - IV. 評議員会提案事項について
 - V. 総会議案について
3. 第38回秋季臨床大会について
4. 平成14・15年度理事選挙開票結果について
5. 平成14年度歳入歳出収支予算(案)について
6. 定款変更について
7. JMCPについて
8. 放射線科専門医更新追加認定者について
9. 諸賞についての提案
10. 用語集CD-ROM化について
11. 「放射線治療患者の診療病歴の長期保存に関する要望」共同提案について
12. DICOM Supplement23 Structured Reporting日本対応「カタラボ」について、作成のための賛同、参画のお願いについて
13. 事務局の充実について
14. 会告の承認

2月号 第55回心臓血管放射線研究会案内

15. その他

報告事項

1. 放射線影響研究功績賞受賞候補者推薦について
2. 各委員会報告
 - 1) 第7回学会教育委員会協議会について
 - 2) 第2回財務委員会
3. その他

議 題：

議事に先立ち山田龍作会長より新年の挨拶があり，議事進行については隈崎総務理事が行うことを提案され了承された。

1. 平成13年度第5回理事会，第6回理事会議事録(案)について一部訂正を加えこれを承認した。

2. 第61回日医放総会について

山田会長より第61回日本医学放射線学会総会準備状況について総会プログラム資料に基づき合同企画，特別講演，International Symposium, International Session, Symposium, パネルディスカッション，教育講演，ランチョンセミナー，イメージ・インターブリエーション・セッション，等について報告がなされた。また，3団体による春の学会の総称を英文名：Japan Radiology Congressとし，4月1日から使用することになった。

1) 名誉会員推薦候補者について

各地方会より報告のあった候補者について検討を加え，古館正從君，佐久間貞行君，小塚隆弘君，中西 敬君，海外からJerry P. Petasnick, M.D., Josef Rosch, M.D., Frederick S. Keller, M.D., Andreas N. Adam, M.D., Philippe A. Grenier, M.D.を評議員会，総会に推薦することに決定した。

2) 評議員提案事項について

各事項について検討を行い，各担当理事より答弁することが決められ，次回理事会で返答内容について確認をすることとした。

3) 次々々期会長推薦候補について

評議員によるアンケート結果を参考にし理事会で検討後，次々々期会長に板井悠二君を会長候補に推薦することとした。

4) 総会議案について

関連学術集会の開催等につき次回理事会まで担当の委員に確認をすることとした。

3. 第38回秋季臨床大会について

渡会大会長より準備状況について説明がなされた。

開催期日は平成14年10月23日，24日，25日，会場は秋田キャスルホテル，秋田ビューホテルで開催予定。

4. 平成14・15年度理事選挙結果について

阿部庶務理事より平成14年1月7日に平成14・15年度理事選挙の開票が行われ，その結果について報告がありこれを承認した。

5. 平成14年度歳入歳出収支予算(案)について

財務担当の酒井理事より，平成14年1月18日に開催の財務委員会で審議された予算内容について資料をもとに説明がなされた。学会予算は年々減少しており，平成13年度は専門医更新料の収入が多い年に当たり黒字が見込まれるが平成14年度の実勢積算では赤字となる。予算残高の減少を少なくするためにどのようにすべきか財務委員会で審議を行った結果，財務委員会としては専門医受験料の値上げを改善策として理事会に提案したい旨の報告がなされた。これについて理事会で審議を行った結果，専門医認定事業の受験料，認定料，更新料を値上げすることとし，平成14年度の収支結果からさらに赤字が出た場合は会費値上げ等についても検討することを確認した。雑誌刊行については，平成14年度予算でRadiation Medicine Vol.21(1)を学会出版物として約500部発行する予算案が財務委員会から提案され，これについて審議を行った結果承認された。

また、東南アジア放射線医学振興基金の運用については今後理事会で検討しながらECR, RSNAへの派遣、海外から日本医学放射線学会総会への参加者援助、等年次計画を立て活用することを前向きに検討することを確認した。

6. 定款変更について

定款の中の総務理事を理事長に変更して運営を計る件について理事会で検討を行った結果、まだ検討が不十分であるので継続審議事項とし、今年度開催の総会には提案事項としないこととし、次期理事会に申し送ることとした。

7. JMCPについて

日本ラジオロジー振興協会を日本ラジオロジー協会とし、英語名はJMCPをJRC事務局とし、JRCのあり方について今後検討してゆくことになった。

8. 専門医更新認定追加者の承認

平木理事より放射線科専門医認定委員会の審査により、放射線科専門医更新認定追加者について報告があり承認された。

9. 諸賞についての提案について

増田理事より若い放射線科医の研究活動を奨励し、学会誌への投稿を促すための案として学会から諸賞を出す案について資料に基づき説明がなされた。平成15年度予算から開始できるよう各企業への寄附願等、次期理事会へ申し送ることを確認した。

10. 用語集CD-ROM化について

前回の理事会で用語集のCD-ROM化について話し合われ金原出版に提案していただく件について平木理事より報告がなされた。金原出版としては用語集については当初からCD-ROM化の話がなかったもので、予算の中に組み込むことは難しいので、今の段階ではCD-ROM化する事は出来ない。用語集のデータを専門医コンピュータ委員会へ専門医試験問題作成のために貸し出す件は協力させていただくとの回答を得られたとの報告がなされた。理事会で検討後CD-ROM化については予算のこともあるので、今後出版されるものについては検討することとした。

11. 「放射線治療患者の診療病歴の長期保存に関する要望」共同提案について

隈崎総務理事宛に日本放射線腫瘍学会より、放射線治療患者の診療病歴の長期保存に関する要望(案)について関係官庁・諸団体・学会に連盟で要望書を出したい旨の手紙が届いた件について、理事会で検討後これを了承した。

12. DICOM Supplement23 Structured Reporting日本対応「カタラポ」について「作成のための賛同、参画のお願いについて

石垣担当理事から日医放電子情報委員会で活動してきた診断報告書のファイル・通信標準化について、関連学会へ協力をお願いし、DICOM Supplement23 Structured Reporting 日本対応「カタラポ」について「作成を行いたい旨の報告があり、その活動への賛同のお願いを日本医学放射線学会から日本IVR学会、日本心血管カテーテル治療学会宛の要望書案が出された。理事会検討後これを了承した。

13. 事務局の充実について

山田会長より日本医学放射線学会事務局の充実をはかることが提案された。ひきつづき検討課題とし、次期の理事会へも申し送ることを確認した。

14. 会告の承認

2月号 第55回心臓血管放射線研究会案内

15. その他

報告事項

1. 放射線影響研究功績賞受賞候補者推薦について

山田会長より今年度の放射線影響研究功績賞受賞候補者は福井大学の加納君を推薦したとの報告があった。

2. 各委員会報告

1)第7回学会教育委員会協議会について

高橋担当理事より日本医学教育学会主催の第7回学会教育委員会協議会(平成14年1月18日開催)が開催され、今回の協議会では3人の演者が講演を行い、討論がされ、その中で日本の卒後教育等について意見が交わされた旨の報告がなされた。これらは日医放の教育委員会としても真剣に取り組む問題であり、検討してゆくことを確認した。

2)第2回財務委員会

酒井担当理事より平成14年1月18日開催された財務委員会について報告がなされた。

平成13年度第6回乳房撮影委員会議事録 第4回デジタルマンモグラフィ評価基準作成小委員会

日 時：平成14年3月22日(金)15:00~17:00

場 所：国立名古屋病院 第1会議室

出 席：石垣武男(理事)、遠藤登喜子(委員長)、石橋忠司、川島博子、東野英利子、小寺吉衛(放射線技術学会)、永井優一(放射線技術学会)、堀田勝平(放射線技術学会)各委員、北村和明、早乙女滋、酒井芳雄(富士フィルムメディカル; オプザーバー)、榎原俊文(東芝メディカル)、入内島誠(GE横河メディカル; オプザーバー)、伊地知宏志(コダック株)、落合是紀(日立メディコ; オプザーバー)各委員

欠 席：岡崎正敏、角田博子、松本満臣、平岡真寛、西谷 弘、藤光律子、松本政雄、今村恵子、鈴木隆二(放射線技術学会)各委員

議 題：

1. デジタルマンモグラフィのファントム評価について報告

前回委員会の決定に従い、1月11日には川島・東野・角田・堀田・佐竹氏が、1月25日には藤光・澤木・永井・鈴木・遠藤氏がファントム写真を評価した。

データは小寺委員が解析を進めている。委員会には国立名古屋病院と愛知県がんセンターの資料と全体をまとめた資料とが提出され、説明がなされた。CDMAMファントムとACRファントムとは腫瘍では相関があるものの他の資料では相関がない。

全体に存在の認識についてはデジタルシステムでは20%低線量群では劣っていた。が、それ以外はS/Fシステムと同等あるいはそれ以上の成績であった。しかし、臨床では形状が診断に有用であ

ることから、これらを反映した評価基準が必要であることが確認された。

施設(設置されている機種)による違いについては、今回のデータは比較的新しいものであったことから、これから従来型の機種についての資料収集が必要であることが確認された。

2. 来年度の活動について

デジタルマンモグラフィの評価基準の作成を目指す。基本的には各施設で使用している臨床条件でファントムを撮影したものを評価する。CRTについては、早急に検討すべきという意見もあったが、課題が多すぎることから、当面はハードコピーでの評価基準を作成する。

今回の実験をより完成させるために、追加実験も検討する。

石灰化の形状の認識について審査できるファントムの作成を検討する。(永井委員から資料が提供される)

学会・研究会等のお知らせ

独立行政法人 放射線医学総合研究所
第105回 放射線防護課程研修生募集要綱

1. 目的

本課程の目的は、1)放射線防護に関する考え方を確立し、2)放射線管理に必要な放射線測定機器の取り扱いを習熟し、3)放射線取り扱いに関する管理・運営までを含む実務能力の向上を図る中で、特定分野での管理にとどまらず、広い視野に立って、放射線防護に関する高い意識に根ざした放射線管理能力を高めることに

あります。

2. 応募資格

放射線に関する基礎知識があるとみなせる者で、放射線取り扱い事業所の放射線管理を行っているか、もしくは行おうとする者、あるいは放射線取り扱い事業所で放射線を使用しているか、もしくは使用予定の者。

3. 募集人員及び研修期間

(1) 募集人員 約24名

(2) 研修期間 3週間

自 平成14年6月17日(月)

至 平成14年7月5日(金)

*備考：本年度の放射線防護課程の開催は、今回1回限りですので、御承知おき下さい。

4. 受講料

本研究所は平成13年度より独立行政法人となりました。これに伴い本研修では受講料を頂くこととなりました。受講料は税込みで105,000円です。

5. 問い合わせ先

〒263-8555 千葉県稲毛区穴川4丁目9番1号

放射線医学総合研究所

国際・研究交流部研修課教務係

TEL 千葉 043-206-3048

FAX 千葉 043-251-7819

e-mail training@nirs.go.jp

ホームページ <http://www.nirs.go.jp/>